

## (25) 有識者へのヒアリング（その2）

### ■ 楽しく、体感型の活動により地域住民の景観意識を高める

／NPO 法人江東区の水辺に親しむ会 理事長 須永俣子氏

#### 取組のポイント

- 地域住民に景観への関心をもってもらうためには“景観”と大上段に構えるのではなく、自然に関心を引き出すきっかけをつくることが重要。例えば、地域に根ざした言葉（水、桜など）で呼びかけ、楽しむことを重視した活動に参加してもらう事がポイント。
- 都市再生モデル調査を契機に、組織の枠を超えた横断的な情報交換の場を設置。行政、NPO、大学などが同席して地域の課題を話し合うことで、課題解決につながっている。

#### 【活動のきっかけ・活動の姿勢】

行政主催の会合を通じて、委員間で人のつながりができ、NPO 活動に発展。

- 河川について地域ごとに情報交換を行うため行政が主催して設置した、「江東内部河川流域連絡会」において委員3名が知り合い、別途地域のまちづくり懇談会の委員1名が加わって活動を開始。

“景観”と大上段に構えるのではなく、楽しむことを重視した体感型の活動を通じて、住民の景観への意識を高める。

- 江東区には景観の軸になる水路が存在しているが、水辺は十分に生かされておらず、地域住民にもあまり意識されていなかった。そのため、住民に、水辺を楽しんで使いこなしてもらうことで、水辺（川、運河、港湾等）に目を向けてもらい、景観への関心を高めてもらおうと思い、水辺を使ったイベントなどの活動を始める。
- まちづくり、景観と大上段に構えるのではなく、自然に人の関心を引き出すきっかけをつくることが重要。
- 住民には、まちづくり、景観といった抽象的な言葉ではなく、〇〇をつくる、〇〇を使って〇〇をするなど、具体的な呼びかけを行い、その際には、地域に根ざした言葉（「水」「桜」など）を使うことが大切。それが地域の個性を活かすことにもつながる。

#### 【主な取り組み内容】

##### イベント活動

水彩フェスティバルー 荒川下流事務所、東京海洋大学、東京都などの協力により開催。昨年で7回目を数え、和船の乗船体験、オープンカフェ、「川によるスイスイ」、扇橋閘門・荒川ロックゲートの見学などを実施。

さくらまつりー 深川観光協会の主催、江東区、深川仲町通り商店街振興組合の共催により開催しており、今年で 3 回目を数える。花見船、「桜旗」、明治丸の見学、川沿い桜の提灯ライトアップなどを実施。

### イベント風景



### 懇談会の設置

- 都市再生モデル調査をきっかけに、江東区、荒川下流事務所、東京海洋大学、住民（深川観光協会等）等との懇談会を設置。2-3 ヶ月に 1 回のペースで開催し、地域の問題解決の場として機能している。
- 区職員には実行責任がかからないよう、個人資格で出席してもらい、組織の枠を超えた情報交換が可能となっている。

### その他の活動

- クルーズの運行…区や民間企業の協力を得て月 1 回リバークルーズを実施。
- 河川塾…学識者の協力を得て全国各地の河川に関する講義を開講。
- パークハウス清澄白河における取り組み  
煉瓦造の工場のマンションへの建替えの際、開発者に保存要請。区の協力も得て、遺構の一部保存、水辺を意識した歩道・堤防設計、建物配置が実現。

保存された煉瓦壁



### 【課題・今後の取り組み】

- 活動は会費収入（約 20 万円）のみで賄っており、活動が事業として成立しておらず、組織の負担は大きい。活動の継続には費用面が大きな問題となっている。
- リバークルーズの宣伝は区の広報に 1 回掲載したのみであり、継続した宣伝が困難。
- 天王洲アイランドでは民間事業者が船上レストランなどを設置し収益をあげている。各々の得意分野を生かして、今後は、事業者にも協力をお願いすることが必要と考えている。

特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会

設立：2002 年 9 月 会員：約 100 名